

日本海沿岸域（能登半島～山陰）の地震分布

京都大学防災研究所 西上欽也

京都大学防災研究所の各観測所で手動読み取りされたデータによる震源分布を図1に示す。

- ・ 富山湾、能登半島から若狭湾、山陰にかけての日本海沿岸域では地震活動度が高い。
- ・ 山陰の日本海に平行な地震分布（1943年鳥取地震の震源断層を含む）が若狭湾から能登半島、富山湾へと線状につながって見える。また、1927年北丹後地震や1948年福井地震の震源断層を含む地震分布が日本海側に向かって延びるなど、これら沿岸域の地震活動は陸域の地震活動と合わせて理解する必要がある。
- ・ これら沿岸域の地震活動は海域における活断層分布とよく対応する。1993年能登半島沖の地震（M6.6）、2007年能登半島地震（M6.9）、2000年石川県西方沖の地震（M6.2）などM6～7クラス地震も発生し、前2者では津波が観測された。
- ・ 今後、これら沿岸域の地震活動の特性について、津波発生予測の観点からも調査を進める必要がある。富山湾や若狭湾などは地形的にも調査しやすいメリットがある（震源決定、メカニズム等）。

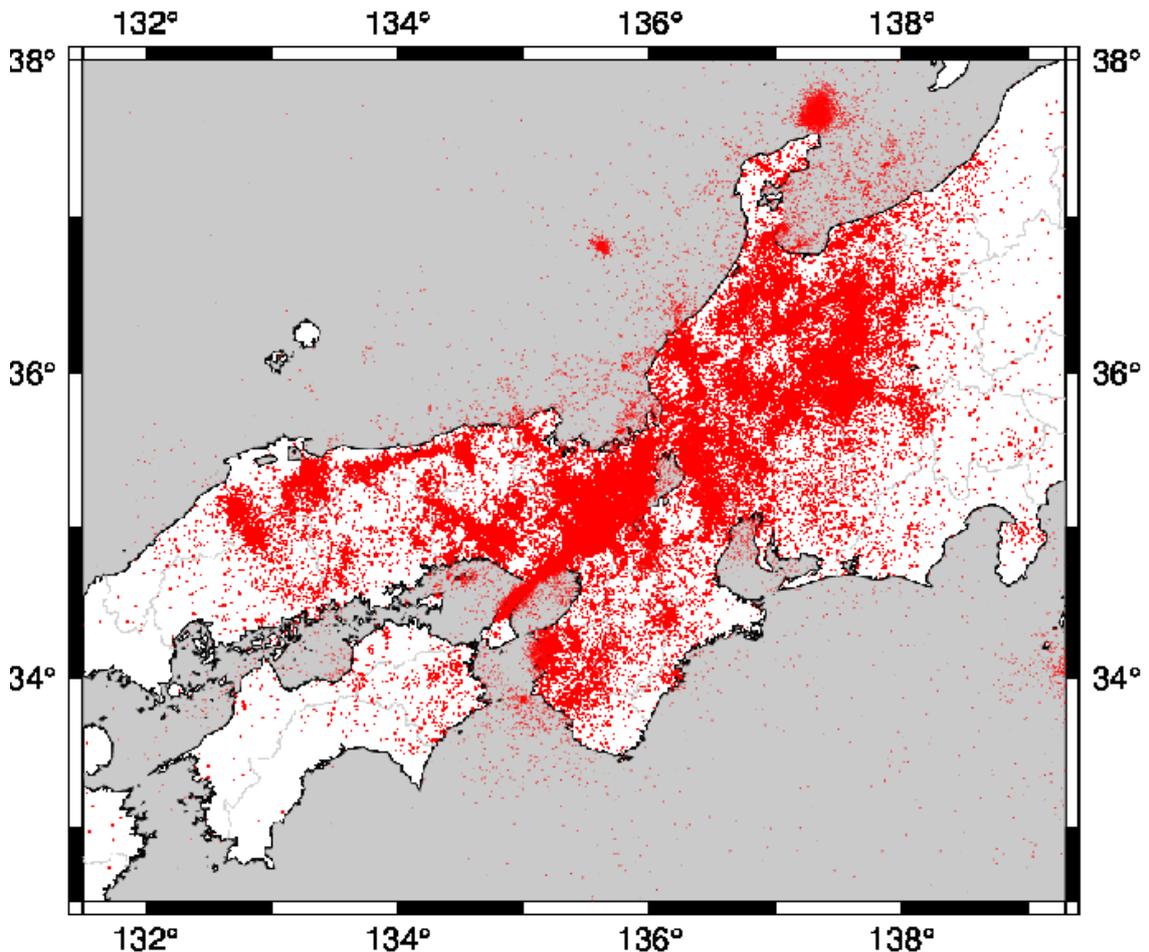


図1 京都大学防災研究所による地震分布。1976年1月～2001年4月。上宝、北陸、阿武山、鳥取観測所等で手動読み取り、震源決定されたデータをマージしたもの。